

いじめで悲しむ人を減らすために

岐阜市立東長良中学校 3 年

清水 咲希(しみず さき)

「ウザい」「キモい」「近づくな」。学校での休み時間、こんな心無い言葉を聞いたことはありませんか。ニュースや新聞で見かける、いじめによる自殺の報道の背景には、このような「相手を傷つける言葉」があるのだと思います。

あなたはいじめをしたことも聞いたことも見たこともないと言い切れますか。そんな人はいないのではないのでしょうか。残念ながら、いじめは私たちの身近に存在しています。なぜ、いじめはなくなるなのでしょう。それは、「いじめなんて自分には関係ないことだ。他人ごとだ。」と思っている人がいるからではないのでしょうか。

私は相手を傷つけてしまう立場について考えてみました。いじめをしてしまう原因は、誰の心の中にもある弱い自分を制御できなくなることだと思います。何かに当たってストレスを発散させたい、自分よりも下の立場の人を見つけ、安心したい。そんな弱い心、気持ちが芽生えてしまうことが誰にでもあるのではないのでしょうか。私には、テストの点数がとても悪かったとき、「Aさんはもっと低い点数だから、私はまだ大丈夫だ。」と考え、自分を安心させようとした経験や、とても些細なことていら立ち、友達や家族にそっけない態度を取ってしまった経験があります。こんな風に日常の中で顔を出す弱い気持ちが暴走し、仲間を酷い言葉や暴力で傷つけてしまうのだと思います。では、どのようにしてそんな弱い気持ちを制御すればよいのでしょうか。私の考える二つのことについてお話しします。

一つ目は、自分のことを認める、大切にすることです。自分の良さも弱さも認めることができれば、心に余裕ができ、自分と周りの人との違いも受け入れることができると思います。自分と向き合うことができれば、相手の傷つくような言動をする前に思いとどまることができるはずです。

二つ目は、相手のことをよく知るということです。誰もが強い一面も弱い一面も持ち合わせています。それが個性です。個性に違いがあるのは当たり前で、素敵なことです。相手の個性を自分と違って変だと傷つけるのではなく、その人らしさだと尊重すべきです。

今、話したいじめをなくすために大切な二つのことは、私が通う東長良中学校の校風としても大切にされています。私の通う学校には、一人一人の居場所と幸せを大切にする四つの校風があります。協：「互いに助け合う心」、優：「人の憂いが分かる心」、敬：「よいところを認め合う心」、恕：「違いを受け入れ合う心」を掲げ、一人一人がいじめ克服に向け宣言をしています。私の宣言は「周りの仲間をよく見て、良さをたくさん知る。良さだけでなく弱さも理解し、自分が支えになる」です。私は、この宣言を学習委員として帰りの会に、仲間の良い姿を紹介したり、授業の意見交流の場で、発言が苦手な子が話しやすいように話題を振ったりして、行動に移しています。他にも生徒会の取組に「円怒囀(エンジョイ)タイム」というものがあります。これは、ランダムに選ばれた仲間と与えられたテーマについて自由に話すというものです。私は、この活動を通して、普段あまり話さない人と話し、その人が何を考えているのかやその人の人柄を知る良い機会となりました。私はこのような活動を通して、さらに周りにいる仲間一人一人を大切にしようと思うようになりました。このような活動を行うことが、一人一人のいじめをなくそうという思いを持ち続けることにつながり、いじめで悲しい思いをする人を減らすことになるのだと思います。

毎年、辛い思いをする人を生むいじめが何十万件も認知されています。一つの尊い命が傷つけられ、失われることで、その人を大切に思う周りにいる多くの人たちの心も大きく傷つけられます。これ以上、いじめで悲しむ人を生み出さないために、決していじめ問題から目を背けてはいけません。私は、これからずっと友達や先生、家族とともに、いじめについて考え続けます。